

地理歴史科（世界史探究）学習指導案

1 単元名 冷戦の展開と平和の模索

この単元は、「2 内容」の「E 地球世界の課題」「(1)国際機構の形成と平和への模索」に該当する。

2 単元目標

- (1) 集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解する。
- (2) 冷戦の展開や終結に関する資料を読み取り、分析する能力を身に付ける。
- (3) 国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、冷戦の展開や終結に至る経緯や画期について多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 集団安全保障と冷戦の展開についての学習課題に粘り強く取り組み、現代の政治的問題の要因を追究する

3 単元計画（全体 10 時間）

(1) 指導計画

- ・冷戦の開始 2 時間
- ・冷戦の展開 6 時間（本時 5/10、6/10）
- ・冷戦の終結 2 時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・集団安全保障と冷戦の展開、アジア・アフリカ諸国の独立と地域連携の動き、平和共存と多極化の進展、冷戦の終結と地域紛争の頻発などを基に、紛争解決の取組と課題を理解している。 ・冷戦の展開や終結に関する資料を読み取り、分析している。	・国際機構の形成と紛争に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、冷戦の展開や終結に至る経緯や画期について多面的・多角的に考察し、表現している。	・集団安全保障と冷戦の展開についての学習課題に粘り強く取り組み、現代の政治的問題の要因を追究している。

(3) 指導内容及び評価計画

(○…「評定に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B)具体的な評価規準 (C)具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1次 (2)	【学習課題】<単元を貫く問い> 「冷戦構造が崩壊に至る画期はどこにあるか」 【学習課題】 「冷戦は東西両陣営やその他の国にどんな影響を与えたか」 ・冷戦の開始	【ねらい】冷戦と東西陣営の対立構造や第三世界の形成について理解する。		●		【知】 (B)冷戦と東西陣営の構造や第三世界の形成について理解している。	・ワークシートの記述内容を基に評価する。
第2次 (6)	【学習課題】「米ソ両国の覇権はなぜ揺らぎ始めたのか？」 ・冷戦の展開 【学習課題】「黒人差別撤廃のためにどんな運動が有効であったか。また、その限界はどこにあったか」 ・公民権運動と黒人差別問題	【ねらい】米ソの国内情勢の変化と冷戦の関係について考察する。 【ねらい】公民権運動に関する資料を基に、どの運動がもっとも黒人の権利獲得に有効であったか、またその限界について考察する。	○	○		【思】【主】 (4)ア、イ参照	・ワークシートの記述内容を基に評価する。

第3次 (2)	【学習課題】 「ソ連の崩壊は世界にどんな影響を与えたか」						
	・冷戦の終結 ・グループワーク	【ねらい】冷戦の崩壊の経緯とそれにより生じた新たな紛争について理解する。 【ねらい】ワークシートの記録を基に冷戦構造が崩壊に至った画期を考え、冷戦後の世界に名前を付ける。グループ学習後、改めて個人の解答を作成する。	●	○	○	【知】 (B)冷戦の崩壊の経緯とそれにより生じた新たな紛争について理解している。 【思】【主】 (4)ウ、エ参照	・ワークシートの記述内容を基に評価する。 ・ワークシートの記述内容を基に評価する。

(4) 評価規準

ア ワークシート2(2)【思考・判断・表現】

公民権運動に関する資料を活用し、その有効性と限界について考察する。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・公民権運動に関する資料を活用し、有効であった点と課題について考察している。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・公民権運動に関する複数の資料を活用し、有効であった点と課題について論理的に説明している。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・有効性と限界について考察できていない。→グループで示された成果や課題を確認する。

イ ワークシート2(3)【主体的に学習に取り組む態度】

公民権運動や黒人の権利獲得について、資料の読解やグループ学習に主体的に取り組み、これまでの学習と現代の課題を結び付けて考えることができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・資料の読解やグループ学習に主体的に取り組み、現代の課題をこれまでの学習と関連させながら考えている。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・資料の読解やグループ学習に主体的に取り組み、現代の課題をこれまでの学習と関連させながら解決のために必要な視点を見いだそうとしている。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・現代の課題を考えることができていない。→現代の差別問題を例示し、公民権運動の課題と関連させて考えられるよう支援する。

ウ ワークシート1（単元を貫く問い）【思考・判断・表現】

冷戦構造が崩壊に至った転換点とその理由を説明することができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況（B）と判断される例

・冷戦構造が崩壊に至った転換点を示し、その理由について説明している。

「十分満足できる」状況（A）と判断される例

・冷戦構造が崩壊に至った転換点を示し、冷戦の構造と歴史的事実を踏まえながらその理由について説明している。

「努力を要する」状況（C）と判断される例とその生徒への支援

・転換点を説明することができない。→学習の記録を振り返り、考えられるよう支援する。

エ ワークシート 1 (学習の記録)【主体的に学習に取り組む態度】

冷戦崩壊の画期を追究するために、粘り強く学習に取り組むことができる。

判断基準

「おおむね満足できる」状況 (B) と判断される例

・冷戦崩壊の画期を追究するために、粘り強く学習に取り組んでいる。

「十分満足できる」状況 (A) と判断される例

・冷戦崩壊の画期を追究するために、関連する学習内容をまとめ、粘り強く学習に取り組んでいる。

「努力を要する」状況 (C) と判断される例とその生徒への支援

・冷戦崩壊の画期を追究することができていない。→授業の内容と学習記録を振り返り、追究できるように支援する。

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

ア 公民権運動についての資料を活用し、その有効性と限界について考察する。

イ 公民権運動や黒人の権利獲得について、資料の読解やグループワークに主体的に取り組み、これまでの学習と現代の課題を結び付けて考えることができる。

(2) 本時の展開 (2 時間分)

(○…「評定に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (15分)	・グループ分け ・黒人差別の実際	・グループに分かれる。 ・ジム=クロー法など黒人差別の実際について学習する。	・実例を挙げながら奴隷解放後も黒人差別が続いていたことを示す。
展開 1 (35分)	【グループワーク 1】「自分たちが差別を受けている黒人の立場だったらどの行動に参加しますか」 ・運動の評価 ・解答の共有	・複数の運動を評価し、最も黒人差別撤廃に影響したものを選択する ・もっとも有効であったと考える取り組みとその理由をロイロノートで提出する。	・理由を明確に挙げられることを目標とすることを示す。
展開 2 (30分)	【グループワーク 2】「黒人差別を禁止する法制度が整備されてもなぜ黒人差別はなくなるのか」 ・公民権法の成立とその後 ・Black Lives Matter 運動 ・公民権法の限界	・公民権法の成立過程やその後のキング牧師の暗殺について学習する。 ・法整備が行われた後も黒人差別が残る原因を考察する。 ・グループで意見を共有し、差別問題に法整備だけでは解決できない課題があることを理解する。	・法整備は重要であるが、限界があることを示す。 ・黒人差別に限らず、同様の事例が考えられることを示し、学習課題の提示へとつなげる。
まとめ (20分)	【学習課題 1】「黒人差別撤廃のためにどんな運動が有効であったか？また、その限界はどこにあったか」 【学習課題 2】「公民権運動の成果や課題を参考にとすると、現代の差別問題の理解や解決に必要な視点はどんなところか」 ・学習課題	・学習課題についてロイロノートを使って提出する。	・評価規準を参照させ方向性を示す。 ○ワークシート 2 (2) (3) 【思考・判断・表現】 【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 本時の評価規準

3 (4) ア、イ参照

5 成果と課題

ワークシート1を活用して毎回授業の振り返りを行う機会を設けたため、生徒の理解度を見取ることができた。理解度が低い生徒に対しては指導者がコメントすることで学習を支援するとともに、次回以降の授業の改善につなげた。また、生徒はワークシートにある単元を貫く問いを毎回確認することで、単元の目標を意識しやすくなったと考えている。

本時の授業では、公民権運動の有効性をグループ学習で検討した。どの運動が有効であったかについての意見がグループ内で分かれたため、複数の視点から見ることの重要性を実感した生徒が多かった。

課題としては、「冷戦の画期を見つけ、その後の世界に名前を付ける」という単元を貫く問いが生徒にとって非常に難しかったことが挙げられる。難しいがゆえに、協力して課題に取り組まなければならないという動機付けにつながったのは、嬉しい誤算であった。解答がある程度予想できる問いよりも、答えが一つに定まらない問いの方が生徒の思考を活性化させる一方で、難しすぎると容易に答えが出ず、授業が消化不良となってしまう。生徒の能力・現状を把握し、適切な難易度の課題を設定することが必要である。

6 参考文献

- ・『黒人差別とアメリカ公民権運動』（J・M・バーダマン（水谷八也訳）、集英社、2007年）
- ・『アメリカ黒人史』（J・M・バーダマン（森本豊富訳）、筑摩書房、2020年）